NIE実践報告

1．タイトル：☆科学的リテラシーをたかめる一助としての新聞活用

2．学校名

長野県長野南高等学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤　洋一

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

生物Ⅰ　3講座　103人

6．単元（本時の学習課題）名

特定の単元とは関連付けず、通年で実施。

7．目標(狙い)

06年・07年の「科学に興味を持つきっかけづくりとしての新聞活用」という実践をさらに一歩進め、社会人として必要とされる「科学的リテラシー」能力を高めることを目指す。

8．評価の視点

年度当初と年度末に全生徒を対象としたアンケートを実施し、実践の妥当性を評価した。また、各自の意見の発表の場において相互評価をおこなった。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年10回程度の新聞記事の要約と感想記入の課題を家庭学習として課した。また、代表的な意見を印刷配布し相互に交流をおこなうとともに、1月末の授業で新聞記事の要約に取り組んだ感想の発表会を実施した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

実践方法

①提供された新聞各紙より、生物・医療・食・農業・環境など生物学に関わる新聞記事に関する要約と感想を家庭学習として課し、添削･評価を実施（年10回程度）

②代表的な意見や要約については印刷配布した。また、水不足の問題については、代表的な意見3人の生徒の文章について印刷配布し、各自でさらに感想を述べるというタイプの課題を課した。

③一年間、新聞要約に取り組んだ感想の発表会を1月末に実施し、発表の様子を生徒お互いに評価した。

（留意点）

①課題は専用のファイルに綴るようにし、学習の成果が視覚的に確認できるようにした。

②互いの意見の交流をはかるために、各課題における代表的な意見や要約について印刷し配布した。特に複数回取り上げた水不足の問題に関しては、代表的な3名の生徒の意見に対して、各自がさらに感想を述べることで各自の考えをさらに深めた。

③全員が考えを述べ、交流しあう場として、新聞要約に取り組んだ感想の発表会を設けた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

発表をおこなうことで「全ての記事が何らかの形でつながっていると感じた」「同じ記事について発表しても自分とは違う意見を持っていた」「他の人の意見を聞いたり、自分と比較して考えることが大切だと気付いた」等、科学的リテラシーにつながるような感想が得られた。

12．成果と課題

通年、課題に取り組むことで、新聞を読むことや文章を要約することに対する抵抗感を払拭することができた。また、発表会を通じて、自ら取り組んできた事を肯定的に認識し、他人の意見と比較することの大切さや同じ記事でも多くの意見があることに気付いた。来年度は、これまでの取り組みをさらに進め、自らの興味に沿った新聞記事を中心に発表原稿をまとめ、発表と質疑応答の場を経験させることで、科学的リテラシーが身につくように指導したい。